平成２５年度「特別支援教育に関する実践研究充実事業
（特別支援教育に関する教育課程の編成等についての実践研究）」報告書

団体名	国立大学法人宇都宮大学教育学部附属特別支援学校
研究開始年度	平成２５年度

Ⅰ　概要

1　指定校の一覧

設置者	学校種	学校名（ふりがなを付すこと）
国立大学法人 宇都宮大学	特別支援学校	うつのみやだいがくきょういくがくぶふぞくとくべつしえんがっこう 宇都宮大学教育学部附属特別支援学校

2　研究テーマ

子ども一人一人が輝く学校作り～本人・社会のニーズに応じたキャリア教育と教育環境～

3　研究の内容

（研究内容）

「子ども一人一人が輝く学校作り」を行うためには，社会の変化に対応し，社会の要請を取り入れた教育内容を展開することが不可欠と考え，キャリア教育の視点を取り入れ，本校の教育課程を整理し，検討を行うこととした。そのため，①学校と卒業後の社会をつなぐために，外部支援者（福祉事業所職員，一般企業関係者，就労関係機関職員，作業療法士，等）を招いての座談会や授業研究会を実施したり，作業学習（本校の学習形態名「作業」）等おける専門家講師の活用を行ったりし，外部の人材の意見を取り入れた教育内容の整理や授業改善を図った。②教員のキャリア教育についての理解を深められるよう，先行研究を行っている学校や，職業教育，進路指導の充実が図られている高等特別支援学校，さらに地域資源の活用を目指し，地域学習に力を入れている学校の視察を積極的に行った。③本校と同時期に支援領域[注]による教育課程の編成を始めた他の学校における現在の状況の調査，及び自閉症に特化した教育課程を新たに編成し，実践している学校の実態調査に取り組んだ。

（評価の観点及び評価方法）

授業研究会を各学部とも，年３回以上実施し，授業観点表を用いて，各観点についてその変容を検討し，評価した。

事例検証の対象生徒を選定し，授業実践から導き出された教育内容や教育環境による指導・支援が，より良い児童生徒の成長や変容を促しているかを，本校独自の「キャリア発達を促すための実態把握表」や「キャリア発達段階チェック表」等を用いて，多面的なアセスメントを行いながら，児童生徒の発表や振り返りの様子，活動中に見られた集中の度合いや積極性，ワークシートなどを基にし，エピソードを集積しながら総合的に検証し，

評価した。

4　研究成果の概要

成果として，外部の意見や先行研究等を参考に，学校全体として卒業後の生活と今をつなげる大切さを再確認し，卒業後の生活を見通した指導・支援を行うための「土台となる力の段階表」や「職業的自立に向けた学習プログラム」を作成することができた。授業研究会では，外部の方を交えたり，学部の枠を超えた縦割りによる授業研究会を行ったりしたことで，小学部から高等部，さらには卒業後の社会を結びつけた視点で，指導目標や指導内容を組み立てるための意見交換や，自立のための視点による指導方法の見直しを行うことができた。また，外部の意見等も参考に，地域資源の積極的な活用を行うことで，実社会に通用する力を育むことや児童生徒が働くことへの具体的なイメージを形成し，自信ややりがい，責任感を培っていくことにつながるのではないかという共通理解を得ることができた。そして，実態調査で得た情報や，より良い児童生徒の成長や変容をもたらしたと考えられる実践成果を，平成２６年度の教育課程の編成に活かすことができた。

課題として，成果に挙げた視点を具体的に年間指導計画等に反映させ，小学部から高等部までの指導内容を体系的に組織していく必要がある。また，地域資源の活用や３支援領域の教育課程の今後について学校全体の意見を深めていく必要がある。

注

支援領域とは，教育内容の新たな分類として開発したものである。

本校では，この支援領域を「発達・学習支援領域（まなぶ)」,「生活支援領域（くらす)」,「就労支援領域（はたらく)」の三つに区分し，３支援領域と称している。「発達・学習支援領域（まなぶ)」とは，個々の特性に応じた支援であり，生活の基礎となる知識・技能・態度への支援。「生活支援領域（くらす)」は，家庭や地域での生活力を養う支援であり，生活設計への支援。「就労支援（はたらく)」は，働く力を養う支援であり，進路選択・決定への支援である。